

- 問1 古墳時代の日本において、朝鮮半島から伝えられた技術によって作られるようになった、高温で焼成される灰色の硬い土器を何と言いますか。
(2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 縄文土器 2. 須恵器 3. 弥生土器 4. 埴輪
- 問2 古墳時代には、巨大な墳墓の周囲や頂上に、土で作られた焼き物が並べられました。これらには円筒形のもののほか、家、馬、あるいは武具を身につけた人物をかたどったものがありますが、これらを総称して何と呼びますか。
(2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 銅鐸 2. 埴輪 3. 土偶 4. 勾玉
- 問3 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群に含まれ、5世紀頃に築造された日本最大の前方後円墳として知られる、当時のヤマト政権の強大な勢力を象徴する古墳はどれか。
(2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 稲荷山古墳 2. 箸墓古墳 3. 高松塚古墳 4. 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）
- 問4 古墳時代を象徴する墓の形式で、円形と方形を組み合わせた鍵穴のような独特の形状を特徴とし、大阪府にある日本最大の規模を誇る大仙古墳（伝仁徳天皇陵）にも採用されている名称を答えなさい。
(2025年 島根県公立入試 類似)
1. 方墳 2. 円墳 3. 前方後方墳 4. 前方後円墳
- 問5 5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。
(2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため 2. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため 3. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため 4. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため
- 問6 鳥取県内最大級の北山古墳が築造された400年頃（5世紀）の、日本と中国の関係について述べた記述として正しいものはどれですか。
(2017年 鳥取県公立入試 類似)
1. 倭王たちが中国の王朝へ使節を送り、自らの地位を正式に認めさせることで、国内での権威や統治の正当性を高めようとした。 2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の皇帝に使節を送り、親魏倭王の称号とともに金印や銅鏡を授かった。 3. 小野妹子が遣隋使として中国へ派遣され、中国の皇帝と対等な外交関係を結ぶことで、東アジアにおける独立性を保とうとした。 4. 平城京を中心とした律令政治が行き詰まったため、中国との公的な外交を断絶し、地方独自の勢力が古墳を築いた。
- 問7 渡来人が日本列島にもたらした技術や文化のうち、当時のヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、他国との交渉を行う上で、特に記録や伝達の手段として不可欠となったものはどれか。
(2017年 徳島県公立入試 類似)
1. 漢字 2. 仏教 3. 機織りの技術 4. 須恵器の製作技術
- 問8 5世紀ごろに大和政権の政治的影響力が日本各地に及んだことを示す、近畿地方を起点に全国へ普及した円形と方形を組み合わせた形状の古墳を何と呼ぶか。
(2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 装飾古墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 前方後円墳
- 問9 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。
(2017年 長野県公立入試 類似)
1. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた 2. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した 3. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した 4. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した
- 問10 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。
(2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。 2. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆を大規模な土木作業に動員できるようになった。 3. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。 4. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。
- 問11 ヤマト王権の王たちが「倭の五王」として中国の南朝へ繰り返し使節を送り、当時の国際社会において自らの地位を誇示しようとした主な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。
(2024年 栃木県公立入試 類似)
1. 最澄などの僧を派遣し、仏教を日本へ正式に導入するための許可を得るため 2. 坂上田村麻呂を派遣して東北地方を制圧するために、強力な武器の支援を求めるため 3. 大陸から稲作の技術を導入し、国内の食料生産を安定させるための指導を仰ぐため 4. 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため
- 問12 古墳時代の大和政権において、朝鮮半島や中国から渡来した人々（渡来人）が果たした役割や、彼らがもたらした文化的な影響について述べた文として正しいものはどれですか。
(2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 銅鐸や銅剣などの青銅器を用いた祭祀を広め、巨大な前方後円墳を築いた 2. 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた 3. 稲作を初めて日本に伝え、各地に高床倉庫を持つ集落を形成させた 4. 狩猟や採集に代わる新しい生活様式として、磨製石器の製作技術を広めた
- 問13 2019年に「百舌鳥・古市古墳群」の一部として世界文化遺産に登録された大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）について、その形状と発見された遺物の組み合わせとして適切なものはどれですか。
(2020年 東京都公立入試 類似)
1. 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪 2. 形状：円墳、遺物：青銅で作られた大型の銅鐸 3. 形状：方墳、遺物：死者の身分を示すための仏像 4. 形状：前方後円墳、遺物：大陸から伝わった陶磁器の破片
- 問14 近畿地方を中心に現れた、一方が四角形で他方が円形をした鍵穴のような形の古墳が、時代とともに全国各地（東北南部から九州）へと広がっていった事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。
(2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 稲作の技術が全国に普及し、各地の農民が協力して巨大な墓を造ったこと 2. 仏教の教えが各地に広まり、新しい埋葬の形式が全国で統一されたこと 3. 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと 4. 大陸から渡来した人々が、日本各地に共通の墓制を直接伝えたこと

答え合わせ・解説

問1	答え 2 須恵器	それまでの日本で作られていた赤褐色の土師器（はじき）とは異なり、朝鮮半島から伝わった「あな窯」を用いて1000度以上の高温で焼き上げる製法が特徴です。この技術は渡来人によってもたらされ、貯蔵用や儀式用の器として広く普及しました。
問2	答え 2 埴輪	古墳の周囲や墳丘の上に並べられた土製品を埴輪（はにわ）と呼びます。埴輪には、王の権威を示す役割や、葬儀の儀式の様子を再現する役割があったと考えられています。縄文時代に魔除けや安産を祈願して作られた「土偶」とは、作られた時代や目的が異なるため、混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 4 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）	大阪府にある大仙古墳は、5世紀のヤマト政権の最盛期に築かれた日本最大の古墳です。これほど巨大な墳墓を築造できたことは、当時の政権が朝鮮半島から確保した鉄製工具を用い、大規模な土木作業を指揮できるほどの強大な権力を持っていたことを物語っています。
問4	答え 4 前方後円墳	古墳時代の3世紀後半から6世紀にかけて、近畿地方を中心に日本各地で築かれた墓の形式です。この形式が全国的に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）による政治的な支配や影響力が各地に及んでいたことを示す重要な証拠と考えられています。大阪府の堺市にある大仙古墳は、この形式の代表例であり、世界最大級の墳墓として知られています。
問5	答え 3 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしていました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。
問6	答え 1 倭王たちが中国の王朝へ使節を送り、自らの地位を正式に認めさせることで、国内での権威や統治の正当性を高めようとした。	4世紀から5世紀にかけて、日本各地で大規模な前方後円墳が築造された時期は、近畿地方を中心とする大王（王権）が勢力を広げていた時期に重なります。この頃の倭王は、中国の王朝に貢ぎ物を届けて「倭王」としての称号を得ることで、その強大な権力を国内外に示しました。これは1世紀に奴国の王が金印を授かった頃に比べ、より広域で組織的な統治が始まっていたことを示しています。
問7	答え 1 漢字	文字を持たなかった当時の日本において、渡来人がもたらした漢字は極めて重要な役割を担いました。ヤマト政権は、渡来人の子孫たちを「史（ふひと）」などの役職に就け、朝廷の記録作成や、中国・朝鮮半島の諸国との外交文書の作成に当たらせました。これにより、組織的な統治や国際的な交渉が可能になりました。
問8	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を連結させた日本独自の形状を持つ古墳です。5世紀にはその築造が最盛期を迎え、近畿地方から離れた地域でもこの形式が採用されたことは、各地の豪族が大和政権の支配体系に組み込まれていった過程を物語っています。
問9	答え 1 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大將軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問10	答え 4 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。
問11	答え 4 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島の高句麗、百済、新羅などが勢力を争っていました。ヤマト王権は、中国の皇帝から「安東大將軍」といった軍事的な指揮権を含む称号を授かることで、朝鮮半島南部における自国の影響力を国際的に正当化しようとしていました。これは、当時の日本が朝鮮半島の鉄資源や先進技術を確保するために、外交的な優位性を必要としていたという背景に基づいています。
問12	答え 2 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた	朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ渡来人は、当時の先進的な知識を持っていたため、大和政権において外交文書の作成や財政の記録・管理といった重要な実務を担いました。彼らを通じて、6世紀の百済からの仏教伝来に代表されるような、大陸の新しい学問、宗教、技術が日本に定着し、国家の仕組みが整えられていきました。
問13	答え 1 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪	大仙陵古墳は、円形と方形を組み合わせた日本最大の前方後円墳です。この古墳からは、円筒埴輪だけでなく、当時の衣服や武具の様子を知る手がかりとなる家・人間・動物などをかたどった「形象埴輪」が発見されています。銅鐸は主に弥生時代の祭祀に使われたものであり、仏像は後の飛鳥時代以降に本格的に伝来したものであるため、古墳時代の特徴としては埴輪が最も適切です。
問14	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の勢力や政治的な影響力が、地方にまで拡大したこと	各地の有力者が大和政権と同じ形式の古墳を築くことは、その有力者が大和政権と政治的な結びつき（同盟や服属）を持っていたことを意味します。このため、前方後円墳の分布範囲を調査することで、当時の大和政権の影響力がどこまで及んでいたかを推測することができます。